

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 気仙沼市立大谷中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒988-0273
宮城県気仙沼市本吉町三島60-4

E-mail ohya-chu@kesenuma.ed.jp

Website http://kesenuma.ed.jp/ooyacyuu/html/htdocs/

幼児児童生徒数 男子 57名 女子 55名 合計 112名
幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

大谷中学校では、小さなハチドリが大きな山火事を消そうと懸命にしづくを落とすという南アメリカの民話にちなみ、ふるさとのために私たちにできることをしようという思いから「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、ふるさとを創る心を育てる」(大谷ハチドリ計画)をテーマに環境保全活動を行っている。

ESDを地域の自然や環境、暮らしを守り、持続可能な地域づくりに貢献するものと捉え、ESDの実践を通して地域の課題を見だし他者と協調しながら、その課題解決に取り組む力の育成を目標とした。

具体的には、大谷の森、大谷の海、ふゆみずたんぼを柱に、①松枯れに関わる活動、②海に関わる活動・③ウニの生態調査、④ふゆみずたんぼに関わる活動を行った。

① 大谷の森に関わる活動

1年生は「大谷の森」に関する活動として、地域の松林の下草刈を行った。松林は防潮林や魚付き林としての役割を果たしているもので、毎年夏に、地域の方々の協力も得て作業を実施している。震災前には、大谷海水浴場をはじめ、海岸沿いに多くの松林があったが、震災の津波で流失し、現在では約10年前に卒業生が植樹した松など高台にわずかに残る程度となった。地域の自然環境を自分たちの手で守る取組の一つとなっている。

② 海に関わる活動

海に関する学習として、今年度は生徒が大谷海岸の砂浜へ行き、生物調査を行った。海岸に流れ着いた海藻を採取して観察したり、プランクトンネットを使って微生物を採取したりした。海岸から持ち帰った微生物には、コクボフクロアミなどのプランクトンが含まれており、学校で顕微鏡を使って姿などを詳しく観察した。大谷の海は昔から豊かな漁場となっており、沖合の魚だけでなく海岸でもウニやアワビ、ワカメなどが豊富に取れ、地域の経済を支えてきました。この豊かな海を支える食物連鎖をテーマに海の生き物を調べることで、震災前からの課題であった磯焼けの現状や、大谷の漁業について関心を持つきっかけとなった。

③ ウニの生態調査

7月に行われた環境講話では、ウニの専門家である東北大学の吾妻行雄先生から大谷の磯焼けの現状や、世界規模で起きている海水温の上昇などについて全校生徒に向けて講話をいただいた。その後、2年生は吾妻先生の指導のもと、ウニを解剖して観察した。昨年度までは生徒たちが大谷海岸に行き、生息数調査を兼ねてウニを採取していたが、今年度は防潮堤の工事が行われているため、あらかじめ採取したウニを使用した。普段、家庭でウニ漁を手伝う生徒も、改めて各器官の働きなどを学ぶのは初めてのようで、アリストテレスのランタンと呼ばれる咀嚼器官をはじめ、ウニの各器官がどのような働きをしているのかなどを、解剖しながら興味深そうに学んでいた。

④ ふゆみずたんぼに関わる活動

3年生は「ふゆみずたんぼ」との関わりを中心に田植えから収穫まで農作業を通しての体験学習を行っている。水田の生態調査などを行った。稲刈り後は、たんぼに水を張り、藁やワカメの茎を蒔くことで、小さな生物が生息し、土を肥やしていく。無農薬・有機栽培で育てた米を地域のボランティア団体の協力のもと、全校生徒でいただく収穫祭を行っている。たんぼに繁殖する栄養価の高いコナギを使った調理実習や水田の生態調査も行った。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

| | | | |
|---|--|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境 | <input type="checkbox"/> 2. エネルギー | <input type="checkbox"/> 3. 防災 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input type="checkbox"/> 5. 気候変動 | <input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性 | <input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産 | <input type="checkbox"/> 8. 人権・平和 |
| <input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉 | <input type="checkbox"/> 10. 食育 | <input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費 | <input type="checkbox"/> 12. 貧困 |
| <input type="checkbox"/> 13. エコパーク | <input type="checkbox"/> 14. ジオパーク | <input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED) | |
| <input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等 | <input type="checkbox"/> 17. その他() | | |

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

| | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力 | <input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度 | <input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度 |
| <input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度 | |
| <input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入) | |

ウ. 活動時間 (複数選択可)

| | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 教科の時間 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input type="checkbox"/> 3. 特別活動等 | <input type="checkbox"/> 4. クラブ活動 |
| <input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述) | |

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

| |
|------------|
| 書籍, ウェブサイト |
|------------|

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、ユネスコスクールとしての活動「大谷ハチドリ計画」を総合的な学習の時間に位置づけ、探究活動と体験活動を行っている。ふるさとの森、海、ふゆみずたんぼといった恵まれた自然を残していくためにできることは何かを考えさせ活動を行わせている。復興が進み変化していく地域の状況に応じた指導計画の見直しが必要である。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

年に一度、公民館や小学校、幼稚園の担当者と年間の行事予定を調整し、合同で行う田植えや稲刈りなどの日程を決めている。これからも組織的かつ継続的に取り組めるように公民館を窓口にし、小学校や幼稚園、地元の漁協や公的機関などと連携し、地域とのつながりを生かした活動を充実させ、協働教育を更に推進していきたい。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

大谷ハチドリ計画の地域コーディネーターが、外部講師の斡旋や体験活動の講師を務めるなど、本校に大きく関わっている。しかし、地域コーディネーターが主体となって計画を組んでいることで、年度途中に新たな計画が入ることもあった。今後は、教員がこれまで以上に積極的に企画・立案、個人テーマの設定に関わっていくことにした。来年度は各学年主任を中心に子どもたちが興味・関心を持って活動できるように工夫し、計画を作成している。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

大谷ハチドリ計画で行われている稲作や環境講話については、学校のホームページで紹介している。ホームページで広く紹介することで保護者や地域の方々に取組を知っていただき、学校教育への理解と協力を得られるようにしている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

市のユネスコスクール研修会で活動成果を発表している。他校の取組も紹介していただき、持続可能な取組を行う上でヒントを得ることができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

他のユネスコスクールとの交流は行っていない。今後、機会があればつながりを持ち、交流を深めていきたいと考える。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

3年間ふゆみずたんぼで稲作体験を行った生徒の感想の中に、「地産地消を心掛け、地域の食材を食べるように心がけたい」というものがあった。地元でとれる米は美味で魅力的であり、地域の食材を食べることで持続可能な地域づくりにも寄与することをハチドリ計画を通して学ばせることができたと考える。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

これまで続けてきた大谷ハチドリ計画に沿って環境保全活動を継続していく予定である

学年ごとのテーマ「大谷の森」「大谷の海」「ふゆみずたんぼ」を3本柱で進めるが、内容は、学年主任を中心に検討し、生徒がより興味を持ち、意欲的に活動できるものにする。「大谷の森」については松枯れの調査や対策の他に、地域の樹木の種類を見学し、木を生かした製品づくりについて考えさせる。「大谷の海」に関しては、磯焼けの現状を知り、その対策として良質の海藻を育てること、その海藻をウニに与えてより美味しいウニの商品化につなげることも検討していく。「ふゆみずたんぼ」については、こなぎの調理実習を来年度も行う予定である。稲を鳥の被害から守るため、案山子の製作も予定している。